

学校だより

にしとべの丘

Nishi-Tobe no Oka

横浜市立西中学校

2021(令和3)年

12月1日



…はや、師走

〈校長 石川 博〉

私は始業式や終業式の時に「節目」という話をします。期間を区切って目標を立てて行動し、その成果はどうだったのかと省みることが大切である、という趣旨の話をしています。12月は1年の締めくくりの月です。今年の1年間は何が成長して何が課題となったのかを振り返る月だと思っています。

「節目」といえば、3年生にとっては15年間の人生の中で最大の節目を迎えることとなります。今月の初めから進路面談が始まり、卒業後はどうしたいのかを決めていきます。自分にあったよりよい進路選択ができ、それが実現することを願っています。

いそがしく 時計の動く 師走哉

正岡子規

12月はなにかとあわただしく感じます。それは、終わりが決まっているからではないかと思えます。「できれば、今年中に」「来年には持ち越したくない」「正月早々から…」ということで、12月末までに決着したいと思ってしまうからでしょう。節目は大切ですが、「まだ次もある」というゆとりを持ちたいですね。

保護者、地域の皆様、今年1年間ありがとうございました。今年もいろいろとありましたが、これからも前に進み続ける西中でありたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

しぜんきょうしつ い 自然教室に行ってきました！

1年生の時から延期を繰り返してきましたが、4回目にして山梨県の鳴沢にある富士緑の休暇村に行ってきました。1日目のオリエンテーリングでは冬枯れの小径を落ち葉の感触を味わいながら歩きました。夕方と夜はレクで盛り上がり（…と言ってもマスク着用、大声禁止とかですが）、2日目の牧場ではアイスクリームをつくり飼育体験をしました。

お天気にも恵まれ、広々とした解放感がとてもよかったです。友達との関係も深まったのではないのでしょうか。無事に実施できて何よりでした。



12月はいじめ防止啓発月間です!!

〈生徒指導専任教諭〉

横浜市では「横浜市いじめ防止基本方針」のもと、12月が「いじめ防止啓発月間」となっています。本校でも「いじめ防止メッセージ」をはじめ、生活委員会による活動（いじめ防止劇）等でいじめの未然防止を全校生徒に伝え、個人面談やアンケート等で一人ひとりの声を聞き取る等を計画しています。

新聞やテレビ等で学校でのいじめが報道されるたびに心が痛みます。西中学校の子どもたちが明るく豊かに安心して過ごすことができる学校づくりを「いじめは絶対に許さない」という気持ちで教職員一丸となって取り組んで参りたいと思います。

今後とも御協力をお願いします。

＜横浜市の取組＞

◆のぼり旗やいじめ防止ポスターの掲示（本校でも実施）

◆いじめ防止市民フォーラム……市役所1階 アトリウム

開催日時 令和3年12月3日（金）14:00～15:30

テーマ 「オール横浜で取り組む いじめの未然防止」

◆地下鉄での啓発…車両中吊り広告掲載

＜本校の取組＞

◆いじめ防止メッセージ等配布

◆生活委員会によるいじめ防止劇（校内放送）、ポスター等

◆いじめ防止アンケート実施、相談活動



ポスター作品の表彰を受けました

「少年非行防止被害防止」を訴えるポスターに応募した本校2年美術部生徒の作品が『最優秀賞』を受け、西区防犯協会より表彰されました。

オレオレ詐欺をテーマに、背後から魔の手が迫ってくる様子を表現したポスターで、戸部警察署が発行する来年のカレンダーにも掲載され、区役所や小・中学校に配布される予定です。



個別級合同遠足ーガンダムファクトリー

11月24日（水）、西区中学校個別支援級の合同遠足で、山下ふ頭にある「ガンダムファクトリー横浜」に行ってきました。全長18m、重さ18tの巨大ガンダムの起動演出は大迫力でした。施設内には、動くガンダムの仕組みや構造、様々な技術を楽しく学べる展示がありました。

食育コラム「食で学ぶ 食を学ぶ」

元横浜市教育委員 長島 由佳

朝夕の風の冷たさが厳しくなってきました。日差しの暖かさ・温もりを感じるたびに、お日様に感謝の気持ちでいっぱいになります。

先日、横浜総合高校の生徒・職員と小田原にあるみかん農園まで、今季出荷する実を大きくするために傷ついた実や小さい物を間引きする「摘果」という作業体験に行ってきました。農園主は、農業大学を卒業後に種苗会社に就職し、のちに実家の稼業であったみかん農園を継いだそうです。同じ農業でも、1年で5~6回以上収穫できる小松菜のような作物の作付けもありますが、みかんは苗を植えて、実をつけ、味や糖度が安定し、検査に合格して商品として出荷するまで10年かかるそうです。そのため、苗を植えて売れるみかんにするという工程は、農業人生において何回もできることではないそうです。

しかし、様々な品種や時期をずらして収穫できるような苗の植え方、レモンや違う品種の柑橘をその土壌や斜面の日当たり・風当たりなどを考慮して考察しながら実践していく姿、自然とともに生きるその姿は、とても素敵であり魅力的でした。高校生の心と彼らの将来のキャリアに、何らかの影響を与えたことは間違いありません。

現在では、食品ロスや廃棄・ゴミの問題・地球環境など様々な社会問題に関して教育の現場でも問題意識をもち、自分たちにできることから考え取り組んでもらうことが必須となっており、各現場での取組が進んでいます。

そして、みかん一つでも分かったように、摘果のように近い未来のためにすぐにすべきことや解決すべきこともあれば、新たな苗つけのように年月をかけて解決したり答えを見つれたりしていくものもあることを知り、子どもたちには、自ら知ろうとする探究心を持ち続けて欲しいと思いました。

最後に、柑橘を使った簡単なデザートを紹介いたします。ちょっとした手間でもとても美味しくいただけます。ダイニングを囲みながら、日々の生活の中でも、全ての出来事や物・人との関わりが、将来の自分に何らか関わっていると感じ、他人事とせず、相手意識をもつことが大切であるなど話題にしながら召し上がっていただければ幸いです。

オレンジとグレープフルーツの白ワイン漬け

材料：オレンジ 2個 グレープフルーツ 1個 程度

A(白ワイン 100cc グラニュー糖 20g) あればミント

作り方：①オレンジとグレープフルーツはうすかわをむいておく。むいた時に出た果汁はとっておく

②鍋に白ワイン、グラニュー糖を入れて煮立て、あら熱を取ったら、①の果肉と果汁をいれ、冷やしておく。

③器に盛り付け、ミントの葉を飾る。

※好みで、リキュールを加えたり、ゼラチンを追加してゼリー状にしてもよい。